

日本歯科大学 校友会・歯学会 会報

VOL. 50 NO. **3**

2025年2月



◆ 委員会企画／基礎の部屋から見る景色〈第3回〉

日歯大との出会いに感謝

◆ 委員会企画／歯科医の四方山話あれやこれ〈第30回〉

歯科医師として ソプラノ歌手として

● 新 諸国お国自慢 (第26回)：福島県

● ポストグラデュエート・コース

歯科医の四方山話 あれやこれ

— 第30回 —

今まで委員会企画は、学術中心で特集を組んでまいりました。われわれ校友会・歯学会の会員が、日進月歩の歯科医学にアンテナを張り巡らせ、絶えず新たな知見をもとめていることは言うまでもありません。しかし、会員の皆さまの中にはそんな歯科医師としての顔とは別に、趣味に実益にと、実にプロ顔負けの知識を兼ねそろえた方々も多数いらっしゃるのです。少し肩の力を抜いて、学術だけではなく、そんな「この道のプロ!」と言っても過言ではない会員の方々をご紹介していこうと思います。

歯科医師として ソプラノ歌手として

群馬県高崎市開業
笹澤 麻由子
(93回)



校友会の先生方こんにちは。

今回、「歯科医師としてまたソプラノ歌手として」の原稿依頼をいただき、このような素晴らしい誌面に記事を書かせていただけて、大変嬉しく思うと同時に感謝の気持ちでいっぱいです。

まず、本文に入る前に自己紹介をさせていただきます。

神奈川県横浜市で生まれ育ち、桐朋学園大学音楽学部声楽科卒業後、日本歯科大学新潟生命歯学部へ2年次に編入学をいたしました。

歯学部卒業後は新潟病院にて臨床研修医を終了し、その後、新潟病院での勤務医を経て現在は群馬県高崎市で開業しております。高崎の地で新規開業をしてから早いものでもう15年の時が経ち、開業当初生後6ヵ月だった息子は高校生になりました。振り返ると新規開業と生後間もない息子の子育てに追われ、当時は歌を楽しむ余裕もなく過ごしていたと思います。

現在は歯科医師として診察診療をフルタイムで行っています。そして高崎市歯科医師会のデンタルファミリーパーティなどでステージを持たせていただいたり(写真1)、ドクターズコンサートで歌ったり(写真2,3)など、細々と音楽活動をする中、縁あってソプラノ歌手として、2023年12月、オリジナルクリスマスソングでメジャーデビューをさせて



写真1 高崎市歯科医師会デンタルファミリーパーティにて

いただきました(写真4)。

こちらは同じく音楽大学声楽科卒業の美容皮膚科医師と私のツインヴォーカル。そしてさらに内科医師と歯科医師によるコーラス、女性医師4人で構成された(Drs. DIVA)という名のユニットで活動しています。その後新曲もリリースさせていただきました。

お時間があれば先生方もYouTubeなどで検索してみてください。私達の歌を聞いていただければ本当に嬉しい限りです(写真5,6)。

▶音楽との出会い

クラシック音楽が好きな両親の影響や環境もあり、3歳より声楽とピアノを習い始めました。最初はピアノから始めようとしたのですが、まだ手が小さすぎて「歌から始めましょう」と当時の音楽の先生より言われたことが私を声楽科への道へと導いてくれたような気がしています。

当時は音楽大学への進学などはまったく考えてなく、楽しくピアノ、声楽を学んでいました。レッスンの後にいただくお茶とお菓子のティータイムがとても楽しみだったことを覚えています(笑)。

家の中でクラシック音楽が流れている空間に育ち、両親と時々出かけるクラシック音楽演奏会の中で最も心惹かれた舞台がオペラ(歌劇)でした。

オペラ歌手による歌と演劇、そして感動的なス



写真 2.3 ドクターズコンサートで歌う筆者



写真 4 メジャーデビューを伝える各メディア



写真 5.6 Drs. DIVAの「トワイライト・イブ」「週末の夜に」

トリー、さらにオーケストラピットの中でのオーケストラ団員また指揮者による美しい演奏、そして圧倒的な舞台装置。クラシック音楽のすべてはオペラからなるといっても過言ではないと思うほど、オペラの舞台は魅力的だと思っています。

初めてのオペラ鑑賞で目にしたプリマドンナの美しさと凛とした舞台での姿が今でも脳裏に焼きついています。3歳より親しんだクラシック音楽を始めそろそろ50年近い月日が流れています。

▶ 幼稚園時代～高校生時代

3歳より習いはじめた声楽とピアノはとて楽しく、歌を歌うことがとても好きな幼少期でした。はじめは楽譜の読み方からスタートしました。ピアノのレッスンでは指にドレミファソラシドの色のテープを付けて、鍵盤の位置を確認しながら聞く、観る、描くなどのあらゆる五感を使い、子どもならではの順応性も重なり、すぐにピアノも歌も楽譜読みも楽しい時間になりました。

本格的にピアノ、声楽を習いはじめたのが小学校入学後でした。徐々にレッスンも厳しくなり、課題が間に合わなかったり、上手に弾けないとものすごく怒られ、ある日レッスンの途中で帰りなさいとピアノの先生に言われ、帰ったら負けた気がすると思いい、レッスンを続けたいと思った私は先生のグランドピアノの下に入り込み、次の生徒さん、また次の生徒さんと3人ほどのレッスンをピアノの下で聞いていました。

私の強い気持ちに折れてくれた先生が「もう出ていっちゃい、レッスンを再開するから」と言ってくれたことを今でも覚えています。当時を振り返ると人一倍負けず嫌いで少し気の強い子どもだったと我ながら思います。少しずつ楽しい音楽が厳しい修行のような雰囲気へと変わりはじめた最初の頃の出来事でした。

ピアノの発表会は横浜・山手のゲーテ座（写真7）で、年に2回ほど開催されました。ホワイト、ピンク、ブルー等のフワフワのドレスとポニーテールに大きなリボンを結んでもらい、ピアノのペダルに足が届かない低学年の頃は補助ペダルを使用していました。楽譜はすべて暗記し発表会では譜面を見ることはできません。途中で忘れて止まってしまうらどうしよう、たくさんの観客も見ているなど、発表会は何度繰り返しても緊張しました。その経験は後々私の人生へ大きな影響を与えてくれたとも思っています。

まったく畑違いのように思える医療とクラシック音楽ですが、強い精神力を必要とすること、また状況に応じて即座に的確な判断をしなければならないという点は重なり合う点だと思っています。

幼稚園、小学校と女子大付属校へ通っていたのでそのまま中高と進学するものと考えていましたが、両親の進めにより中学受験にて音楽科のある学校へ進学しました。こちらも女子校でした。朝礼から「ごきげんよう」の言葉でスタートし、廊下で先生また生徒同士がすれ違う際もごきげんようの挨拶を交わすという、今から思えば非常に独特な世界観のある学校でした。

受験科目は普通の中学受験と同じく基本的な勉強にプラスしてピアノ、声楽などの実技と面接がありました。学校では普通の教育過程の勉強カリキュラム以外に音楽の特殊授業がたくさんありました。

ピアノ、声楽のレッスン以外にソルフェージュ、楽典、聴音、作曲、音楽理論等を学びました。ピア



写真7 ゲート座（横浜・山手）



写真8 桐朋学園大学・学生ホール

ノ、声楽は小学生時代からの個人レッスンの先生にも習っており、学校の中での歌、ピアノの試験、またコンクールなどたくさんの観客のいる舞台、審査される場での演奏する機会はとても増えました。中学より同じ付属の女子校音楽科へ進学しました。あたり前のように大学進学は音楽大学との流れがすでにできあがっていました。

そのような環境にもかかわらず、医師になりたい、医学部へ進学したいと思う気持ちがあった私は、同じ学校の同級生達が音楽に夢中である時、理系系の勉強を個人塾に入り少しがんばっていました。この時がんばって理系の勉強をしていたことが後の歯学部進学の願いに繋がったと思っています。

高校2年生の頃、大学進学について保護者面談があり、学校の先生より桐朋学園大学への進学を勧められました。高校ではたくさんの推薦枠のある音楽大学はありましたが、東京藝術大学と桐朋学園大学音楽学部の2校は推薦枠のない音楽大学でした。

音楽への憧れの強い母は大変喜びし、いつの間にか話は進み、桐朋学園大学声楽科の教授（その後音楽大学でも教授の門下生となりました）の下での個人レッスンが始まりました。教授は声楽科の中でも比較的珍しいフランス歌曲に精通されていた方で、私のフランスかぶれはこの頃から始まりました（笑）。

▶音楽大学時代

桐朋学園大学音楽学部声楽科へ合格が決まり、大学生になれる喜びと大好きなクラシック音楽また音楽大学ならではの語学の授業がたくさん詰まったカリキュラムに心惹かれ、医学部希望の気持ちはすっかり薄れてしまっていたのも同じ頃であったと思います。

音楽大学では高校時代からレッスンについていた桐朋学園大学音楽学部声楽科教授の後藤俊子先生の門下生として個人指導を受けていました。音楽大学ですが4年制大学なので普通の大学と同じく一般教養課程も授業にありました。選択科目では数学、物理などを選びました。芸術系大学での理系科目は人気がなく、同じ授業を選択した学生があまりに少なくクラスに生徒5人だけの授業もありました。

それとは逆に語学の授業は受講生の人数も非常に多く毎回たくさんの刺激を受けました。英語の他第3言語まで選択でき、私は大好きなフランス語、イタリア語を選択しました。その他、音楽の専門的な授業がたくさんあり、専攻科目の声楽（オペラ、歌曲、フランス歌曲）と演劇、第2楽器のピアノ。またソルフェージュ、楽典、聴音、作曲、音楽理論、音楽歴史、合唱などです。

東京都調布市仙川にある大学はとても独特の雰囲気があります。通学の際、校門に近づくと絃楽器また管楽器の音が響き渡り、学生ホールに同大学出身の有名オペラ歌手、ピアニスト、ヴァイオリニスト、指揮者の方が普通に座ってコーヒーを飲みながら談笑していたり、楽譜や楽器を抱えた学生がレッスンの合間にクッキーとお茶で休憩していたりする小さな学生ホールは芸術好きにとっては夢のような空間でした（写真8）。

世界的に有名な指揮者の小澤征爾先生は同大学出身者であり、名誉教授として1年に一度くらいのペースで指揮またオーケストラの指導にいらしていました。先生の放つ独特な世界観と芸術家オーラは例えようもないくらい素敵で素晴らしかったと記憶しています。大好きなクラシック音楽、学びたかった言語、厳しくも美しい芸術の世界に魅了されながらもあっという間に4年間は過ぎ去り卒業を迎えました。

▶歯科大学受験決意～歯科大学時代

音楽大学を卒業して間もなく、ふと思い出した、高校時代に願った、もうひとつの夢、お医者さんになりたいと思う気持ちが強くなり、小児科医師であ



写真 9. 10 歯科医師として、音楽家として

る父に自分の気持ちを話しました。「それならば1年勉強する期間を与えます。もし1年で合格の切符を掴める大学があれば進学を認める」という返答をもらいました。

歯学部を受験し歯科医師を志そうと気持ちを固め、1年に目標を定めて高校以来遅れ、また忘れかけた受験科目を必死で勉強し直しました。勉強を始め半年、腕試しの気持ちで日本歯科大学新潟生命歯学部編入試験を受験しました。この頃の編入試験は一般入試より随分早くに受験日があったため、本当に記念受験のつもりでしたが、運と神様が味方をしてくださったのか、合格通知をいただくことができました。

新潟生命歯学部へ入学後は先生方と同じく日々勉強、実習、課題、進級試験に追われ、卒業試験を通過し、最後は難関の歯科医師国家試験合格を目指し、ただただ必死で日々を過ごしました。音楽を楽しむ時間も心の余裕さえもほとんどなかったと記憶しています。

▶ 現在(歯科医師としてソプラノ歌手として)

憧れの歯科医師になり、結婚、出産も経験しましたが医療の現場から離れたのは息子の出産前2ヵ月、出産後5ヵ月のみでした。

これまでたくさんの臨床を重ねて参りましたが、臨床はどんなに一生懸命患者さんに接していても、自分の限りを尽くしても、不満を抱かれることもあ

れば有難うと喜んでいただけることもたくさんあります。医師もひとりの人間です。喜びを感じることもあれば苦痛を感じることも時にはあります。

音楽により培われた強い精神力は私の現在の仕事にも役立っていると思っています。そして歯科医師として仕事を続ける喜びは何よりも私の生き甲斐となっています。

また音楽とは別件ですが、フランス好きが高じてフランスワインを知りたくなったことがきっかけとなり、2017年に日本ソムリエ協会認定ワインエキスパートの資格を取得しました。趣味のゴルフも月一ペースで地元歯科医師会のゴルフ仲間の先生方と一緒にさせていただいております。

私は小児歯科、一般歯科をメインに診療しております。また、アンチエイジング歯科医療という分野も専門として診療しています。入会している歯科、医科の学会はとても華やかな会が多く、たくさんの学びを得ることと同時にさまざまな分野でご活躍の先生方と親睦を深めることができっております。学会仲間の先生方と定期的に食事会などで集まり、医療の話、ゴルフまたワイン、旅行の話などをするひと時も楽しい時間となっています。

そして日々進化する医療に対して勉強をする気持ちも忘れないように心掛けています。経済的にも精神的にも自立できる資格、仕事につけたことは私にとって永遠の財産だと思っています。また私の人生に大きなチャンスを与えてくださった、本学とのご縁と感謝の気持ちを忘れてはおりません。

クリニック開業また子育てが少し落ち着き、音楽を生活の一部として楽しみ始めた頃に歌手としてのメジャーデビューのお話をいただきました。音楽活動は今もお、私の生活にたくさんの潤いを与えてくれていると思っています。

歯科医師として音楽家として…、仕事、趣味、勉強、音楽、さらなる経験を重ね、私らしく常に前を向いてそして堂々と！素敵に歳を重ねていきたいと思っております(写真9,10)。この投稿がきっかけとなり先生方にオペラまたクラシック音楽への興味を持っていただけたらとても嬉しいと思っています。

愛する母校である本学の校友会・歯学会会報誌面にて、このような素晴らしい機会を与えていただきましたこと、心より御礼申し上げます。

Bonheur à tous (すべての人に幸あれ)